天渓 2016 年 「インカ道マチュピチュとナスカ地上絵 12 日間」

第 1 部

「インカ道マチュピチュとナスカ地上絵 12 日間」を 5 月 12 日～5 月 23 日に行いました。
インカ帝国の首都クスコ（ケチュア語でへその意味）からマチュピチュ遺跡へ続くインカ道（Camino Inka）、その終わりの部分 45Km を 3 泊 4 日かけテント泊でトレッキング。マチュピチュ遺跡では正面のワイナピチュ山にも登頂。
首都のリマに戻り、今度は車と飛行機を乗り継いでナスカの地上絵遊覧飛行を楽しみました。昨年はエルニーニョの影響かどうか分かりませんが 5 月は乾季というのに少々愚図つき気味の天気でしたが、今年は乾燥した晴れの日が続き、哀愁インカはじめ古代遺跡を楽しんで来ました。

（聖山サルカンタイ 5/18 日）

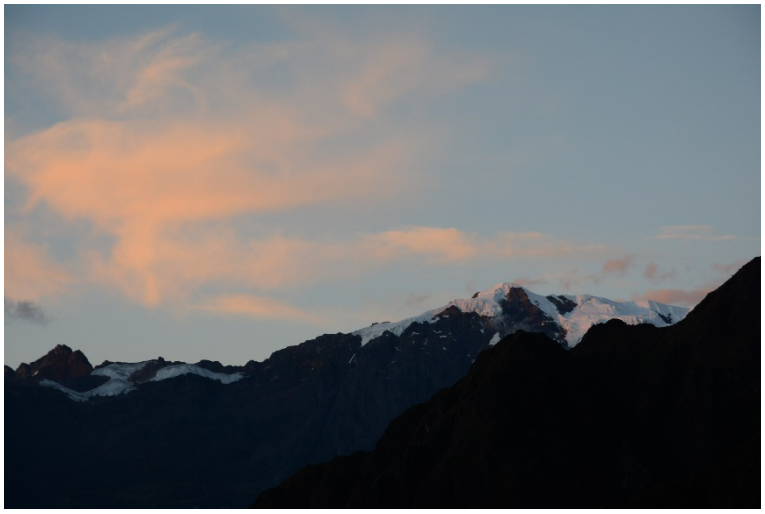
〇ウルバンバへ
滑走路の混雑からか成田出発が 1 時間以上遅れた関係で、中継地のトロントで乗継便に間に合わずホテルに 1 泊。
翌日コロンビアのボゴタを経由し日本を出てから 40 時間余りで漸くペルーの首都リマに至った次第です。翌日はこの遅れを取り戻すためインカ帝国の首都クスコは簡単な市内観光（セント・ドミンゴ教会等）で済ませ、1 泊を取り止めてウルバンバへ向かいました。海抜 0mのリマから飛行機で一気にクスコ（3400m）、車で少し下がってウルバンバ（2900m）、 高さに慣れない体には些か堪えました。

〇入山初日
急激に上がったクスコで高山症状が出た方も、僅か 500m程下がったウルバンバでは快方に。余談ですが今まで天渓のインカトレックで高山病から途中途棄された方はおりません。 トレック最初に皆様にお話しするのはスタート地点のサボテンやリュウゼツランが生える砂漠地帯がマチュピチュ遺跡に近づくにつれアマゾンの密林ジャングルに変わって行く様子。この僅か 45Km の間で起こる気候の変化は勿論日本では体験できません。
これも余談ですが、今年はここ数年来アメリカントレッカーを最も多く見かけました。昨年 9 年半ぶりに利上げしたアメリカは日本で感じるよりも着実にリーマンショックから立ち直っていると思われます。

（リュウゼツラン 5/15 日）

○入山 2 日目

今日はコースで一番タフな一日。標高 2900mの幕営地点から1300m登った所のルート最高地点、ワルミワニュカ峠（4215m）越えが待っています。簡単に言えば富士山七合目を出発し、頂上より遥か上の 4200mまで登り、そこから下って頂上付近に泊まる様な行程です。何時もは午後になると雲が湧き、視界が遮られますが今年はすっきり状態で、夕焼けに染まるベロニカ山も何年か振りに見ることができました。北斜面のこのテント場、パカイマユからは頭上後方に南十字星が美しく見えますが、正面に柄杓の形をした北斗七星が大きく入ります。 しかし、柄杓の一辺を 5 倍した延長上にある北極星はもう少しの所で残念ながら地平線の下。やはりここは異郷の地です。



（ベロニカ連山 5/16 日）

〇入山 3 日目

今日のルートのポイントは正にインカの人たちが作った石積のインカ道を歩き、運上ハイキングが満喫できる所です。そしていよいよ鬱蒼としたジャングルへ入って行きます。出発するころから何故かガスが垂れ込め、今までの天気が嘘のような曇り空でしたが次第に雲が流れ、夕方になって流れる雲間のウルバンバ渓谷越しにインカの山並みを見ることができました。

（プユパタマルカ 5/17 日）

次回はマチュピチュ遺跡の様子をお伝えします。

記　　天渓　赤沼

☆補足

毎年同じ事を書いていますが、マチュピチュ遺跡へ向かうインカ道はペルー文化庁により「トレッカー・ポーター・ガイド全て合わせ 1 日 500 人」に厳しく入山規制されています。日本での知名度は低いものの、この古道は世界のトレッカーに物凄い人気です。今年も 1 月 11 日受付開始早々から 5 月を中心に申込が殺到、私達の入山日 5 月 15 日は数日で満員、札止めになりました。来年の受付け開始日は未定ですが少なくとも年末までに申込んでいただければと思います。

尚、キャンセル待ちは一切有りません。(為念)

先月末に燕山荘グループスタッフ写真展が松本市美術館市民ギャラリーで開催されました。

そのサブタイトルが **「大自然からのプレゼンと」** これは丸山祥司様からいただいた素晴らし言葉です。

人は何故山に登るのかと問われた先人は'そこに山が有りから'と答えたそうです。 私は俗界の全ての事を一瞬にして忘れさせ、その後記憶の中に生き続ける「感動という大自然からのプレゼントをもらいに登る」 と思います。